



弘前市出身・仙台市、東北
大学大学院理学研究科教授



千葉 柁司

17

雲漢

蝋や墨のいいにおいがするとワクワクしてくる。太鼓の囃子が聞こえてくると血がさわぐ。そう、これこそ津軽のDNAが入っている証拠であり、別名「ネプタ男」ともいう。

「ネプタ男」はねふたまつりの時期のころに活動が活発になる。ねふた小屋が町のあちこちでできてくると、つつい中に入って出来具合をチェックする。ねふたの骨組みはどうなっているか、回転や上下運動をどうやってやるのか気になる。「ネプタ男」はとにかくねふた絵が大好きだ。当然、節堂、龍峽、達温、義夫といった有名なねふた絵師のことを知っているし、各絵師の絵の特徴も知っている。どの絵師の絵が好きかは「ネプタ男」の好み次第だ。「ネプタ男」は太鼓の叩き方にうるさい。バチをどう叩けばいいとか、叩き方のリズムはどうだとか、いろいろとうんちくを語る。「ネプタ男」は叫びすぎて喉を痛め、初日で声が出なくなる。「ネプタ男」は「大きなねふたは後から来る」と信じ込んで、結局最後のパトカーまで見送ることになる。「ネプタ男」は七日日が終わると急速に活動性が低下する傾向にあるようだ。

ねふたの額の正面に必ず「雲漢」という字が（昔の書き方で右から左へ漢雲という形で）書かれている。これは中国の詩に使われる古い言葉で「天の川」のことをいう。同じ意味の古語で「天河」「星河」「天河」もある。これらは現代では使われておらず、現代中国語では（日本語にもある）「銀河」というそうだ。英語ではミルキー・ウェイ（乳の道）といい、ギリシャ神話に由来する呼び

名である。仏教の国は「川」と見たのか。

天の川と呼ばれる銀河系は約1千億個の星の集まりであり、その大半は直径が約10万光年で厚みが2千光年の円盤状の領域に分布している。1光年は光が1年かかって進む距離だから、気が遠くなるような大きさだ。地球を含む太陽系は銀河系の中心から約2万8千光年離れていて、その周りを毎秒220km/sの速さで軌道運動している。銀河系を1周するのに約2億年もかかる長旅だ。このような銀河系の円盤部（銀河円盤）には、最も古い星で100億歳近いものが存在している。つまり、銀河円盤が形成され始めたのはそのぐらい昔にさかのぼり、100億年よりもっと前は天の川はなかったのである。

美しい見送り絵に見とれているうちに、ねふたがどんどん遠くに小さくなってほかのねふたと重なり合い、まるで天の川のようにほかに光る帯となって津軽の夜を艶やかに飾る。



挿絵・佐藤 元昭

リンとして人気がある室内で育てられます。ミニ観葉や寄せ植えのほかに、日光不足の場所に置いたままでは徒長し

花は小さく自立しないベビーティーズ



はらりゆらりゆらり